

評価分析

保育の計画性

- ・前年度の担任との共有する機会があることで、園児の成長の様子、課題を参考にし、新しい園児の姿や成長に合わせた保育が出来たのは、いいことだと思う。
- ・他学年の姿をモデルとして頑張っている姿を、子供の送り迎えの際に、よく拝見していましたが、園児にはいい刺激になり、自分たちで考える力、行動する力が育ち、自分の意思で行動することが大人になって結びつくので、どんどん場を作っていってほしい。
- ・人の話を聞くというのは、このコロナ禍の中では、聞き取りにくかったり、集中しづらかったのではないかと考えたが、先生方が、園児に対して興味を持てる様な環境作りをしてくれたので、園児達も友達の話の聞けたり、共感できたりしたのではないだろうかと思います。
- ・感染予防をした中での保育が一番先生方が大変で辛かったとは思いますが、先生方が色々、園児の事を考えてくれ今までと同じだが、違う形の保育が出来て園児にも環境が変わるような保育ができて、良かったのではないかと思います。

保育の在り方幼児への対応

- ・個別支援計画を作成することにより、園児との関わりあい方、異年齢の子供との接し方や発達段階に応じた環境作りが出来て共通理解に繋がり、良かったのではないかと思います。
- ・先生方が園児一人ひとりの個性、特性を把握して行動してくれるため、私が送り迎えの際に拝見していると園児たちが生き活きと過ごして行動していると思う。

研修と研究

- ・園児に関しても、拝見させてもらっていますが、年少～年長の子供たちは、意欲的に行動、仲間たちと考え行動、共に園児同士で思いを伝えあっていると私の中では考えます。これは、先生方の声かけが子供達の自信や、やる気に繋がっていったのではないかと思います。
- ・先生たちも日々、保育の質の向上を目指してくれていますので、園児に対してもよりよい保育に繋がっていると思います。
- ・最後に
このコロナ禍で三密を避けるために園児の事を考えて生活方法を考えて頂いたこと感謝いたします。ありがとうございます。
毎年、福島の子供たちと交流を深める活動を行っていましたが、コロナになって

この活動が出来なくなり、またコロナが落ち着いた時にはこの活動を行って頂きたい。
また、園児が主体となり、野菜等の販売を行い売上を福島へ送金するという取り組みに
ついてこのような活動を行うことにより園児と今までの、卒園児もそうだと思うが、
人を思いやる心が活動を通して育っていると感じます。
この2年間コロナ禍の中、行事が出来ていないところではありますが一つずつ園児の
思い出を作れる保育をしていっていただきたいです。
また、子供達一人ひとりと向き合い、よりよい幼児教育をこれからも行ってほしい。

ひばり会 会長 奥秋 博臣